



# 相談支援つうしん



県立湘南支援学校  
支援連携グループ  
相談支援班 第5号  
令和7年11月5日(水)

秋のおいしい物が出回ってきましたね。栗・柿・さつまいも・サンマ…切りが無い。

学校行事も、修学旅行や学習発表会とさらに大きなイベントが目白押しです。良いお天気で準備万端、楽しい思い出や日々の活動の成果ができるといいですね。



今月は「学びの秋」ということで、

【自閉症(自閉スペクトラム症)の子どもとの暮らし方 ~お部屋作りのコツ~PART 1】

一般社団法人誠智愛の会 服巻智子氏の研修会からの情報提供をさせていただきます。

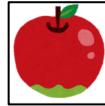
【自閉症(自閉スペクトラム症)の子ども】\*服巻先生は自閉症とお話しされていたのでそのまま引用します  
(ポイント①)

◆ 自閉症の人は、「見て学ぶ人」である。

- ・ 視覚情報の情報処理が得意な人たちである。

→ 見て状況を理解しやすい

⇒ 分かりやすい順番(具体化)具体的・模型・写真カード・絵カード・文字(抽象化)  
忘れても手がかりとして情報が残っているので、再確認しやすい。



りんご

→ 見えるものに引きずられる

⇒ たくさんの視覚情報があると混乱してしまう。提示の仕方は注意が必要。



\* 【自閉症の子どものお部屋づくりのコツ】 ⇒ 見る力が強いことを意識する!

○自閉症の子どものお部屋づくりのコツ①

【見え(せ)ない収納の活用】

- ・ 研修会では、事例紹介の中で「手の届くところの物をどんどん落としていく。

高いところも登って取ろうとするという小さい子の例が挙げられました。



◆ 自閉症の子は、見えるものは触っていいと理解する

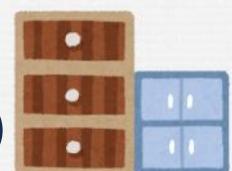
→ 見える物を整理整頓する

⇒ 触っていい物だけを見るように整理しておくことがポイント。

見える収納は、おしゃれで大人には分かりやすいが、自閉症の子どもにとっては、触っていいものと判断してしまう。

⇒ 見せる収納ボックスには、紙を貼って中の物が見えないようにする。

大人が必要なものや触ってほしくないものは別に分けて置く。



\* 「なにしてるの」「ダメ、触らないで」といったやりとりは日々の生活シーンの中で起きやすいやり取りかと思います。そんな一言を言わなくても済むように環境を整えることが大切であると服巻先生はお話ししていました。改めてお部屋や教室の環境を見直す機会になればと思います。



## 【ちょっと休憩】

母との家族旅行 第二弾 「記憶の引継ぎ」の巻



「私の母」の話を引き続きさせていただきます。

今年は、また一人ひ孫が生まれたこともあり、5月のゴールデンウィークに我が家と妹家族、母を交えて総勢16人でこれまた箱根路に向かうこととなりました。今回は、ひ孫3人を連れて行くので大賑わいです。

母は、「遠足みたいだから、お菓子持って行かなきゃ！」と行く前から気合充分です。大型車にチャイルドシートをセットしていざ出発。車の中でも、ひ孫に母の方から積極的に話しかけ、やる気満々です。

無事にホテルに到着。午後のゆっくりした時間は、大きなお部屋に集まっておやつタイム。持ってきたおやつを食べながら昔の家族写真のお披露目会！のスタートです。父と母のお見合い写真や結婚式の様子、ノスタルジックな母の実家の写真などを見て昔話に花が咲きます。いつも以上に、声を張って元気よく話す母。写真を手がかりに昔のことは思い出しやすいようです。

父との思い出に、「コロッケが食べたいと言われて作ったら、カニクリームコロッケだったのよ！東京の人は違うんだと思ったわ」と話してくれ、みんなで大笑いをしました。確かに、昔父がレストランでカニクリームコロッケ注文していたことを思い出しました。芋コロッケじゃなかったのね。（笑）

母の実家の話や家族の話、子どもの頃の戦争時の話などもしてくれて、私たち子どもや孫たちにとっても知らない当時の暮らしを垣間見る機会となりました。

母からのオーダーでお茶の道具も持っていましたので、翌朝は母がお抹茶を立ててくれました。母は娘時代からいろいろなお稽古事をしていたようです。茶道もその一つだったようで、道具の使い方やお作法について話してくれ、みんなで順番にお茶を立て、朝のひと時を楽しみました。

年を取ると記憶保持が難しいことがあります。記憶の保持には「海馬」と呼ばれる脳の一部が「記憶や空間認知」に関わっています。海馬は、「見たり聞いたり経験したりといった、たくさんの情報の中から、必要な情報は、「忘れない記憶」として残しておき、不要なものは海馬から消え「覚えていない」と判断します。

必要な情報が「忘れない記憶」として、記憶の箱に入ると基本的には、一生消えることはありません。（思い出せないことはあります）

記憶の箱から必要な記憶を思い出すには、きっかけが必要です。今回の母の場合は、アルバムの写真ですね。そこでの楽しかった思いや悲しかったこと、美味しい食事やいい香りといった記憶と感情がまた思い出をよみがえらせることにひと役買うことになります。



認知の病気の中には、「海馬」自体がダメージを受けることもあるので、そもそも「覚えられない」という状況になると思います。朝ごはんは食べたのを覚えていないのに、昔の記憶はよく覚えていて話してくれるというエピソードはよくあります。その人にとて楽しかった、幸せな昔の記憶は、気持ちを元気に入れます。ちょっと忘れちゃうこともあるけど、まあいいかと思いつつ、「そういえば、昔～したね」と言って笑っている機会を多く作っていきたいと思っています。

今回の家族旅行の最後には、16人みんなで写真を撮りました。みんなの笑顔が映る写真を嬉しそうに母が施設の方に見せていました。母の記憶に残ってくれるといいな。。。